



Kenneth Rainin Foundation (ケネス・レイニン財団) が 2025 年度の Rainin Arts Fellows (レイニンアーツフェローシップ) を発表

5 年目を迎えるフェローシップ、バイエリアのアーティスト 4 名に
総額 40 万ドルの無制限助成金とアーティスト支援を提供

(カリフォルニア州オークランド-2025 年 4 月 23 日)ケネス・レイニン財団は、ダンス、映画、公共空間、演劇の分野で先見性のあるバイエリアのアーティストを称える財団です。年次プログラムの **レイニンアーツフェローシップ 2025 年度受賞者** を発表できることを嬉しく思います。設立 5 周年を迎えるこのフェローシップは、総合的な支援を提供することで、より公平な芸術エコシステムの構築に寄与しています。この賞では、4 人のアーティストに 10 万ドルの無制限助成金を授与するほか、各フェローの具体的なニーズや目標に対応した資金計画、マーケティング支援、法律サービスなど、個別リソースを利用できるようにしています。

2021 年に創設され、**United States Artists** が運営するレイニンアーツフェローシップは、創作の限界を広げ、地域社会を支え、芸術分野を発展させるアーティストを表彰します。2025 年度のフェローたちは、バイエリアに深く根ざし、献身的で先見性のある芸術活動によって地域の文化的基盤の創造と強化を実践する、世代を超えた人々のグループを形成しています。

アンカーアーティストとしてのレイニンアーツフェローは、地域の文化的歴史から力を得ると同時に、次世代のアーティストにインスピレーションを与えています。彼らの作品は、移住、プライド、帰属意識、抵抗などの個人的、集団的な歴史を反映しており、それは彼らのコミュニティや国内の都市で反響を呼んでいます。

2025 年度のレイニンアーツフェローシップ受賞者：

- [Vanessa Sanchez](#) (**ヴァネッサ・サンチェス**、ダンス) は、コミュニティアートとラティーナ、チカーナ、先住民の女性や若者の声や体験を強調する伝統舞踊に献身するチカーナのダンサー、振付師、教育者です。サンフランシスコを拠点に、タップダンス、ソンハローチョ、アフロカリビアンリズムを通して、歴史的物語と社会正義を探求する有色人種女性主導のリズミックダンスカンパニー、La Mezcla (ラ・メスクラ) の創設者兼エグゼクティブアーティスト



ティックディレクターでもあります。2019年のDance/USAアーティストフェローであるサンチェスは、バイエリアの先進アーティストや有色人種の若者を指導しながら、質の高い芸術教育やパフォーマンスの機会を増やすことに尽力しています。2020年から2023年までカリフォルニア大学サンタクルーズ校のダンス講師を務め、現在は「Brava! For Women in the Arts」のアーティストインレジデンスとして活動しています。

- [Kyle Casey Chu](#) ([カイル・ケイシー・チュウ](#)、映画) - 別名 Panda Dulce (パンダ・ドルセ) は、第四世代のサンフランシスコ出身の映画監督、作家であり、サンフランシスコの避難民や有色人種のクィア&トランスに元気を与える作品を発表しています。現在、SFFILM FilmHouse のレジデントであり、長編デビュー作となるシニールなドラマ『*After What Happened at the Library*』の脚本出筆に従事しています。サンフランシスコ初のアジア系アメリカ人と太平洋諸島系のドラッグファミリー、ライスロケットツを描いた彼女の短編映画は、NewFest Pride 2025 で初公開される予定です。ライスロケットツと共演し、地域のために 25,000 ドル以上の寄付金を集めたほか、Drag Story Hour の共同設立者でもあります。デビュー小説『*The Queen Bees of Tybee County*』(HarperCollins、2025年) は最近、イギリスのテレビシリーズとして映像化されることが決定しています。また、サンフランシスコのドラッグ界のレジェンド、ホセ・サリアの絵本は、2026年に(Abramsより)発売されます。
- [Christy Chan](#) ([クリスティ・チャン](#)、公共空間) は、ビジュアルアーティスト、映画監督、コミュニティオーガナイザーです。映像、インスタレーション、パフォーマンス、オブジェクトデザイン、地域社会の関与、公共芸術介入を組み合わせたチャンの公共空間プロジェクトは、多くが市全体を対象とした参加型のプラットフォームです。過小評価されているコミュニティの市民を集め、真実を語ることを目的としています。過去のプロジェクトには、『*Fainting Couch*』(2022年)、『*Dear America*』(2021年)、『*Everybody Eats Lunch*』(2019年)、『*Inside Out*』(2019年)、『*I Still Live Here*』(2017年) などがあります。彼女の作品は、サンフランシスコバイエリアの Yerba Buena Center for the Arts、Mills College Art Museum、Southern Exposure、ニューヨークの Wassaic Project x NY Council of the Arts、ロサンゼルス の Film Independent、ソルトレイクシティの Utah Museum of Contemporary Art、オマハの Bemis Center for Contemporary Art、NPR などで紹介されています。チャンは、反アジア人種差別に対抗して、アジア系アメリカ人および太平洋諸島出身アーティストの作品を都市部の高層ビルに投影するゲリラ的パブリックアートプロジェクト「*Dear America*」の創設者です。彼女の自主制作映画『*Plymouth Station*』は 2025 年に公開予定です。また、Guggenheim Fellowship、Creative Capital Award、California Arts Council Fellowship、Fleishhacker Award など、数々の賞を受賞しています。バイエリアの芸術・映画コミュニティで 25 年間活動しており、サンフランシスコの Southern Exposure では理事を務めています。バージニア州生まれ、カリフォルニア州リッチモンド在住。

- **Brenda Wong Aoki** (ブレンダ・ウォン・アオキ、演劇) は、サンフランシスコを拠点として活動する国際的に著名なストーリーテラー、劇作家、プロデューサー、演出家、およびパフォーマーです。彼女の学術的な活動は、演劇、交響楽、現代舞踊、ワールドミュージック、太鼓、ジャズアンサンブル、映画、インタラクティブなミュージアムインスタレーションなど広範囲に及んでいます。作品は、能や狂言という日本の伝統的な演劇の訓練、自身の生活経験、そしてサンフランシスコにおける 127 年続く家族の歴史から影響を受けています。アオキはまた、全米で最初に認められたアジア太平洋地域の語り部でもあり、彼女の作品は米国議会図書館のアメリカ民族文化コレクションに収蔵されています。1997 年には、First Voice を共同設立しました。この組織は、米国において異文化間のパフォーマンス作品を製作・上演することを専門にした、たった 2 つの団体の 1 つです。世界 100 以上の大学でアーティストインレジデンスを務め、カリフォルニア大学のリージェント奨学金受賞者でもありました。サンフランシスコ州立大学で最初のアジア系アメリカ人女性講座のひとつを受け持ち、スタンフォード大学では芸術における多様性研究所の創立メンバーです。

「バイエリアは長い間、多くのアーティストにとっての心の拠り所として、創造性と成長を育んできました。レイニンアーツフェローシップの目標は、この精神を体現し、限界を広げ、常に自身の技術を深めている人たちを称えることです」と、**ケネス・レイニン財団アーツプログラムオフィサー**である **Sarah Williams** (サラ・ウィリアムズ) 氏は次のように述べています。「私たちは、ケネス・レイニン財団が掲げるバイエリアの文化遺産を維持・管理するという信念を反映した作品を創作する、先見性のある 4 人のアーティストに、今年のレイニンアーツフェローシップを授与できることを大変うれしく思います。各フェローは、それぞれの専門分野に独自の視点をもたらし、バイエリアの芸術コミュニティに貢献するだけでなく、その未来を形作っています」。

今年のフェローは、バイエリアのアーティストや文化指導者から推薦され、国内審査員と 4 人の地元審査員による 2 部構成の審査プロセスを経て選出されました。国内審査員は、Jen Krava (ジェン・クラヴァ、Forecast Public Art)、Meida McNeal (メイダ・マクニール、Honey Pot Performance)、Rachell Morillo (ラシエル・モリロ、Institute of Contemporary Art Philadelphia)、Eugene Sun Park (ユージン・サン・パーク、Full Spectrum Features)、Maya S. Cade (マヤ・S. ケイド、Black Film Archive)、Robert Ndong-Lay (ロバート・ンドンドン・レイ、FilmNorth)、David King (デヴィッド・キング、Apollo Theater)、Murielle Borst-Tarrant (ミュリエル・ボルト・タラント、Safe Harbors NYC)、Sara Zatz (サラ・ザッツ、Ping Chong & Company)、Kim Chan (キム・チャン、Jacob's Pillow)、Peter-Rockford Espiritu (ピーター・ロックフォード・エスピリトゥ、Tau Dance Theater)、および Seta Morton (シー・モートン、Danspace Project) の各氏です。バイエリアの審査員は、Aliah Najmabadi (アライア・ナジマバディ、Alliance for California Traditional Arts)、David Mendizábal (デヴィッド・メンディザバル、Berkeley Repertory Theatre)、Joan



Osato (ジョン・オサト、Youth Speaks) 、および Manijeh Fata (マニジェ・ファタ、Film SF | San Francisco Film Commission) の各氏です。今年のアフェローシップは、世代を超えた交流、文化に根ざした活動、地元のアーティストや機関との深い協力関係を育むことで、ベイエリアの芸術コミュニティのメンターシップ、アクセシビリティ、持続可能性への財団の献身を反映しています。

フェローシップは、各分野の未来を切り開くアーティストを支援することで、ベイエリアが受け継いできた境界を広げる芸術性を維持し、地域に根ざした永続的な芸術活動を育成するという信念を強化します。この投資を通じて、ケネス・レイニン財団は、ベイエリアが芸術的革新とストーリーテリングの活気ある中心地であり続けるよう、創造的な声を高める使命を継続します。

今年のアフェローおよびアフェローシッププログラムに関する詳細は、[ケネス・レイニン財団のウェブサイト](#)をご覧ください。

###

ケネス・レイニン財団について

ケネス・レイニン財団は、芸術、教育、健康分野における創造的な思想家たちと協力する家族財団です。私たちは、画期的な成果を達成するためには、賢明なリスクを負うことが重要だと考えています。助成金は、ベイエリアの先見性のあるアーティストを支援し、オークランドの若い学び手に機会を提供し、科学的発見の最前線に立つ研究者に資金を提供しています。2009年以來、同財団は6,100万ドル以上の資金を、創造的表現の限界に挑む個人アーティストやベイエリアの中小芸術団体に提供してきました。詳細は krfoundation.org をご覧ください。

United States Artists について

United States Artists は、アメリカの文化的エコシステムにおいて極めて重要な役割を果たしています。無制限の資金援助と専門的なサービスを通じてアーティストの福利を向上させ、その活動を広め、社会における彼らの重要な役割を支える環境を改善しています。2005年に設立され、イリノイ州シカゴを拠点とする United States Artists は、主要なフェローシッププログラムと特別イニシアチブを通じて、877人以上に総額4,500万ドルを超える直接的な支援を提供してきました。



Kenneth
Rainin
FOUNDATION

報道連絡先

Jackie Anyanwu (ジャッキー・アニャンウ)
アソシエイトディレクター、カルチュラルカウンセル
jackie@culturalcounsel.com

Rachel Roberts (レイチェル・ロバーツ)
シニアアカウントエグゼクティブ、カルチュラルカウンセル
rachel@culturalcounsel.com

Flannery Strain (フラナリー・ストレイン)
アカウントコーディネーター、カルチュラルカウンセル
flannery@culturalcounsel.com